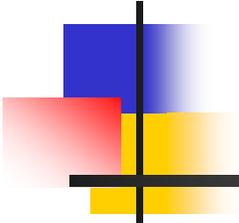


石油懇談会資料

原油市場を巡る動向



2008年10月29日(水)

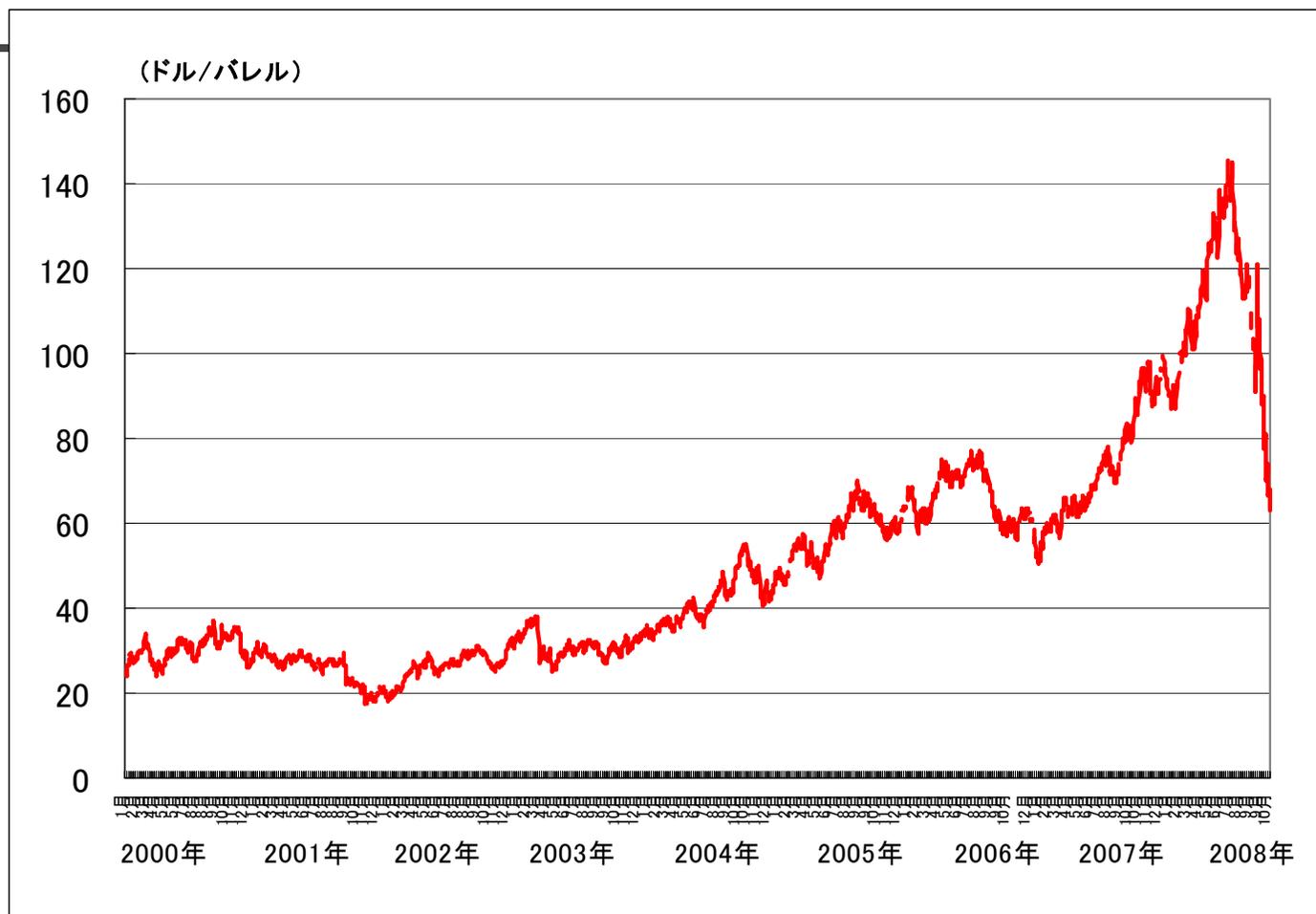
日本エネルギー経済研究所

戦略・産業ユニット 国際動向・戦略分析グループ

石田博之

下落するWTI原油先物価格

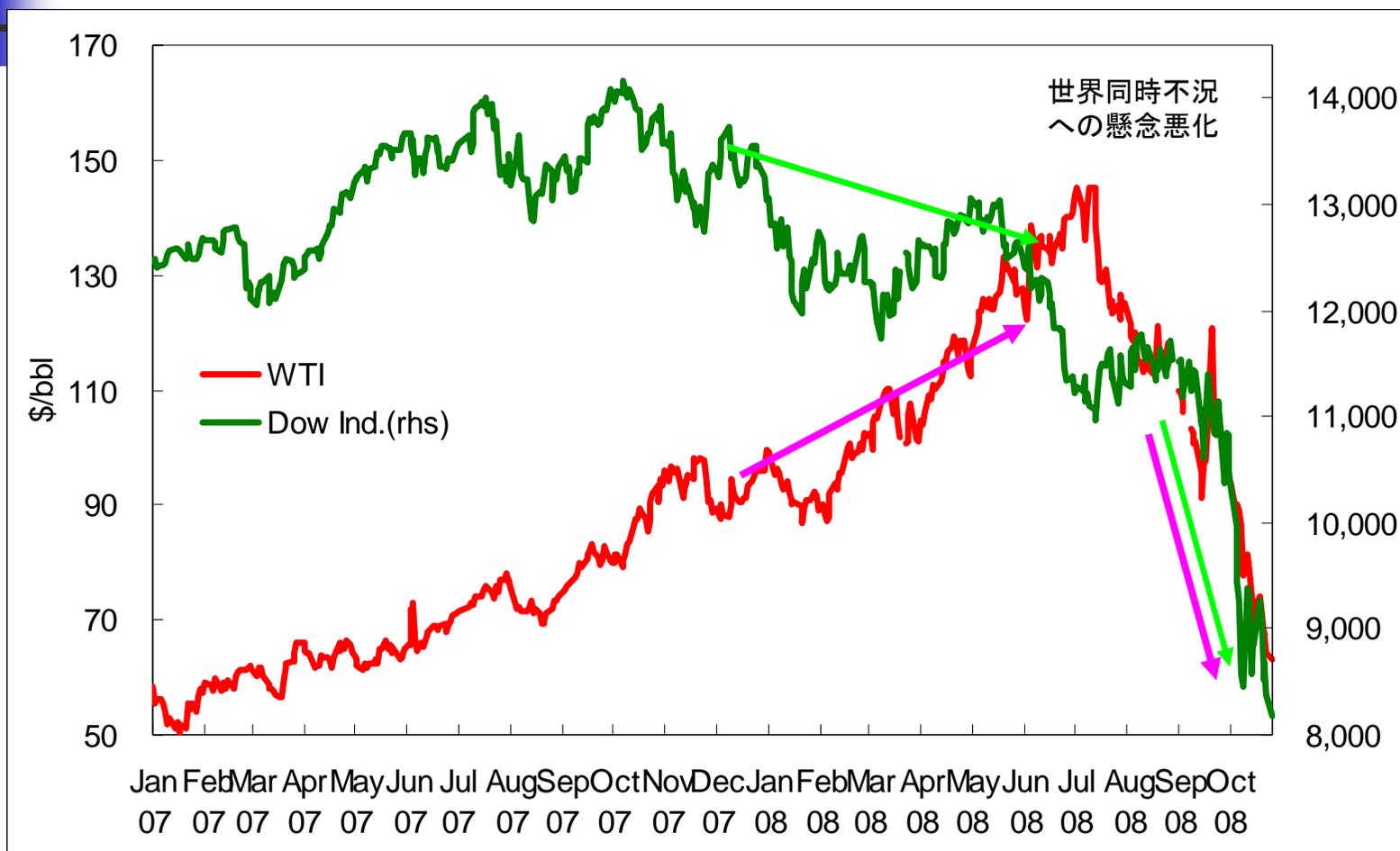
2008年7月には150ドル近くに上昇後、3ヶ月で反落



(出所) 米国エネルギー省エネルギー情報局資料等より筆者作成

株価とWTI価格

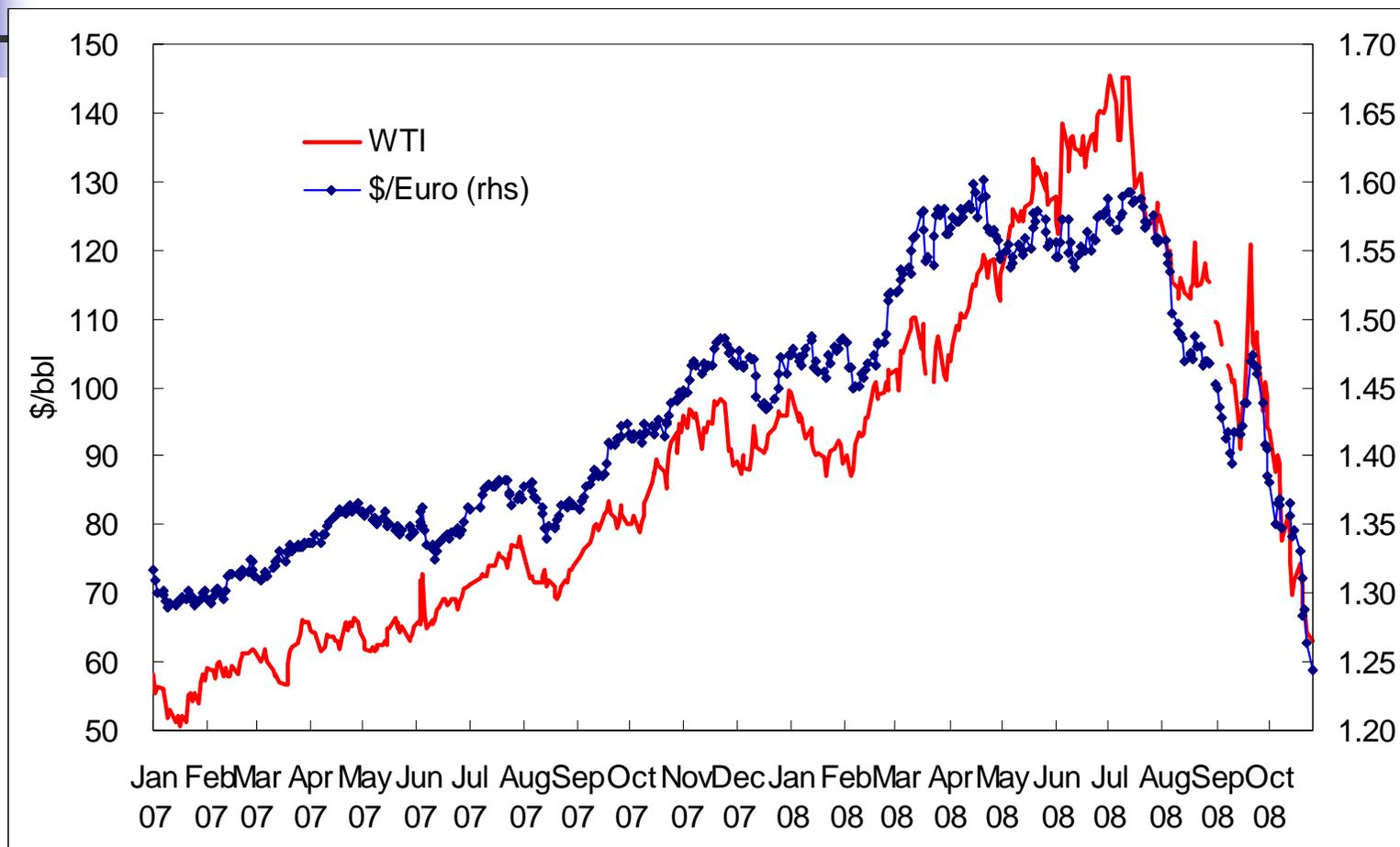
原油高と株安が連動して進行、金融危機深刻化で関係逆転



(出所)NYMEX資料などより筆者作成

ドル相場とWTI価格

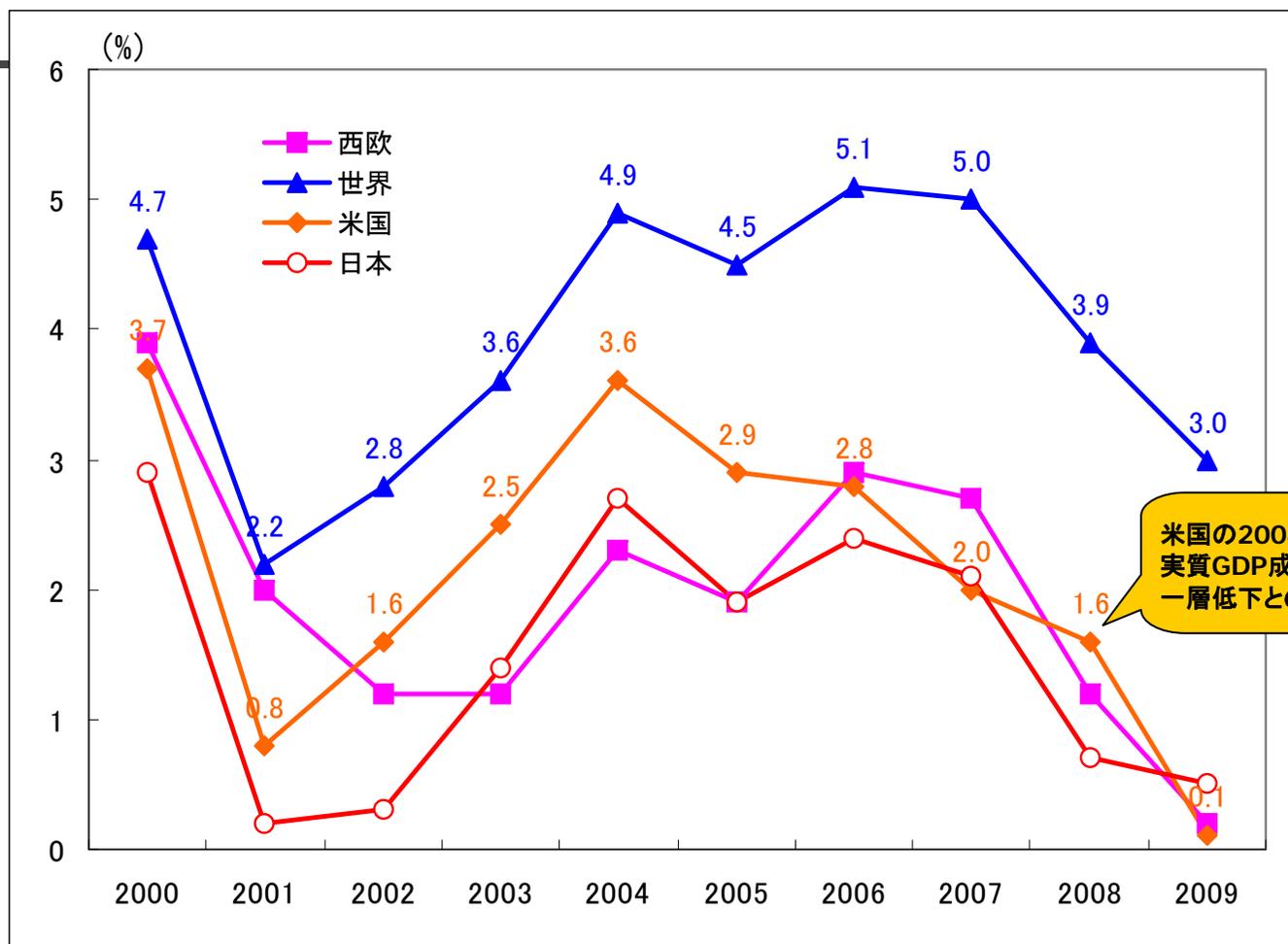
原油高とドル安が連動して進行



(出所)NYMEX、FRB資料より筆者作成

世界経済見通し

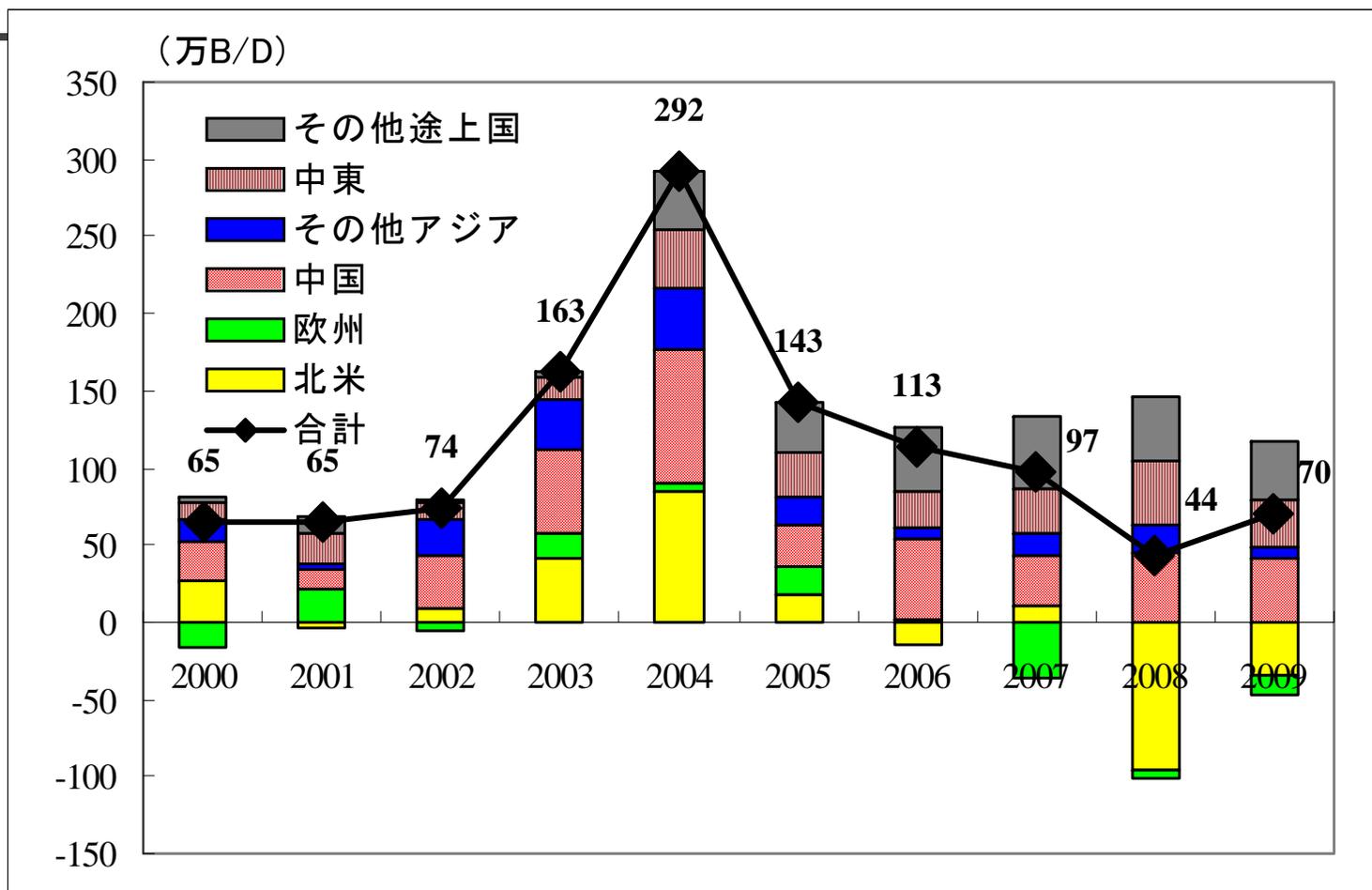
2008年の世界のGDP成長率は先進国を中心に減速



(出所) IMF「World Economic Outlook」(October 2008)より作成

世界石油需要の対前年増の推移

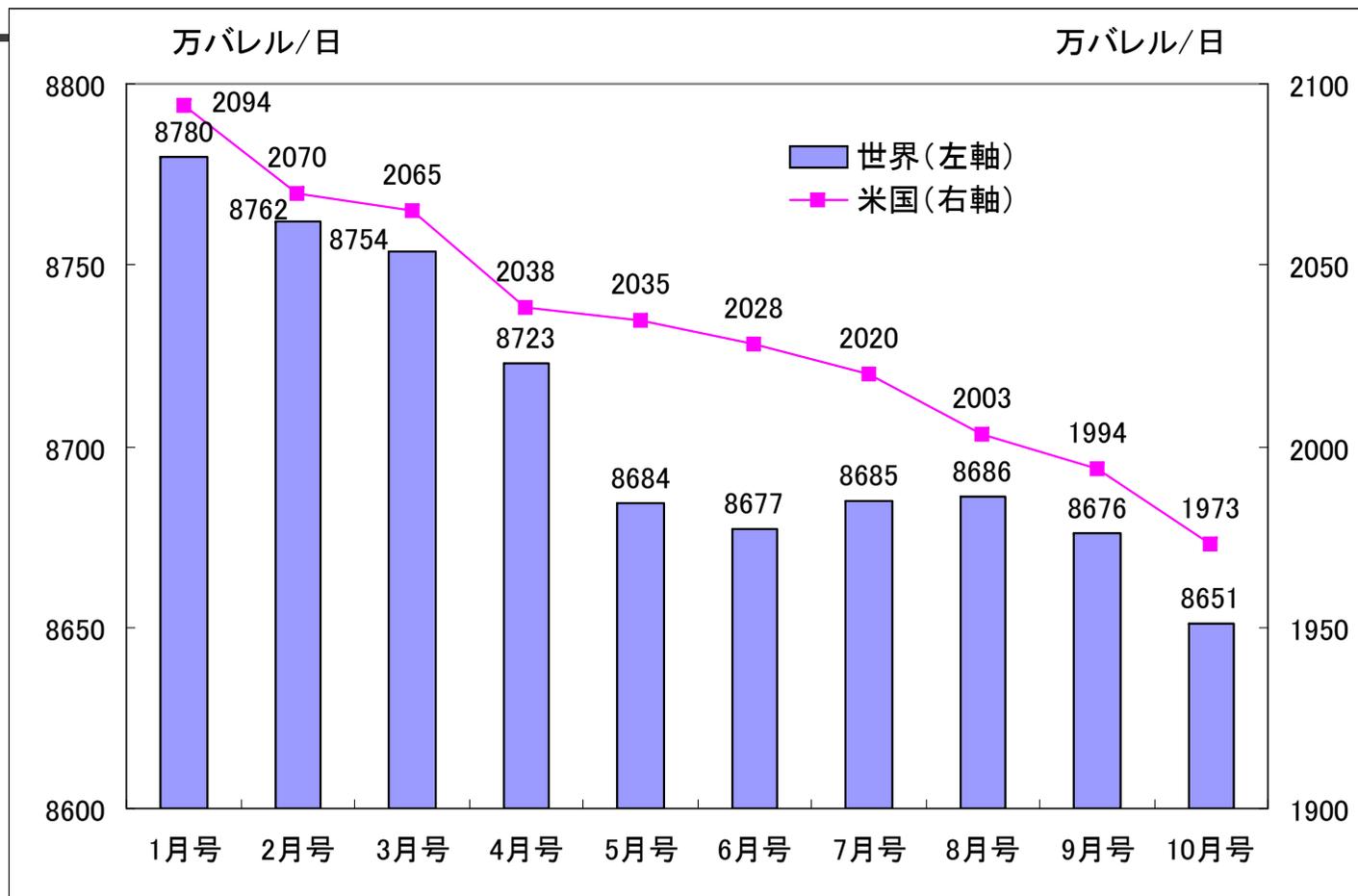
石油需要は、中国、中東、他途上国を中心に増加。欧米では減少も。



(出所)IEA「Oil Market Report」より筆者作成

2008年石油需要の見通し比較

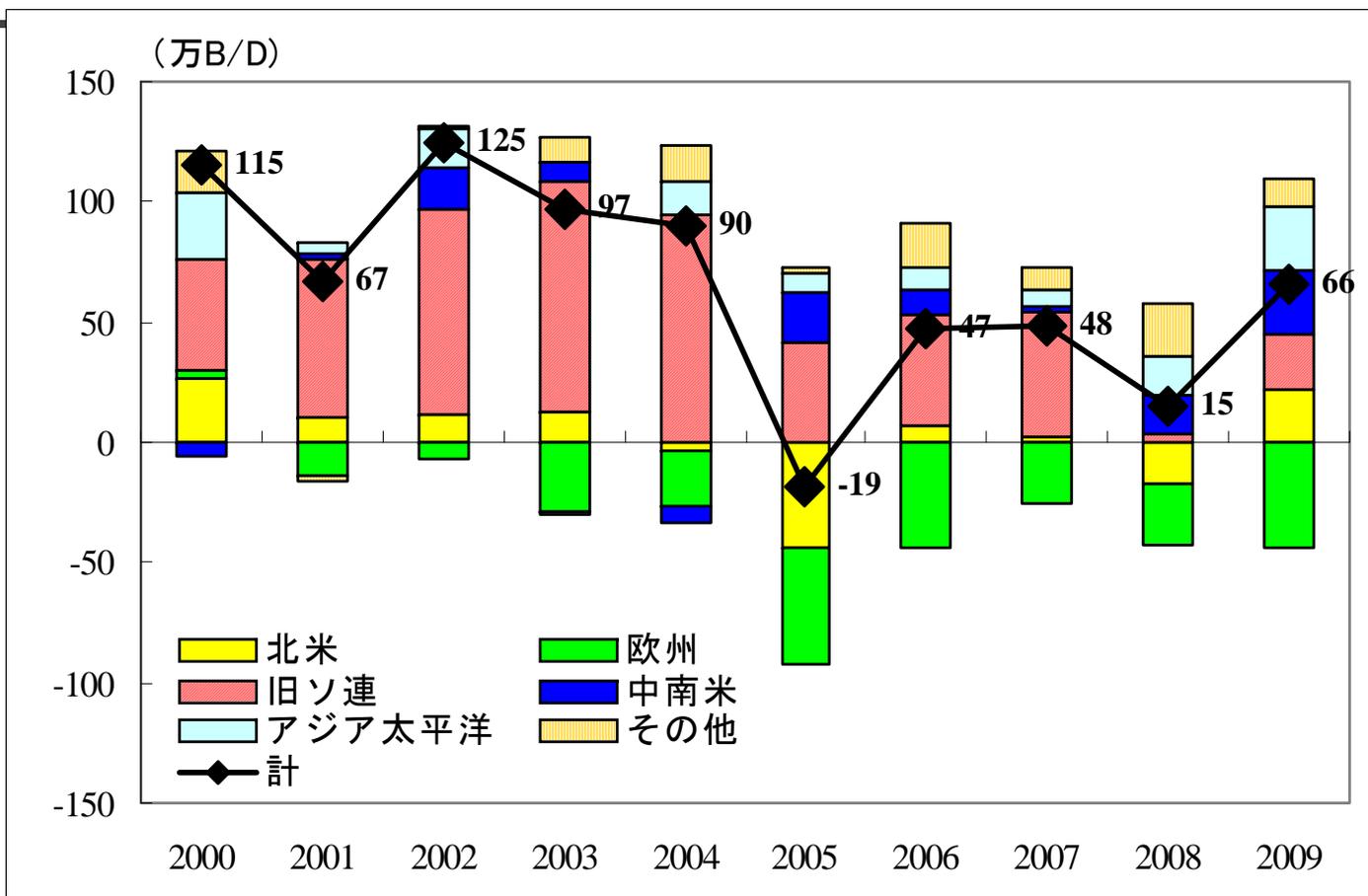
需要増の見方は米国を中心に大幅に下方修正



(出所)IEA「Oil Market Report」より筆者作成

非OPEC増産(対前年比)の推移

2008年、非OPEC生産は当初増産が期待されたが、微増に



(注)トレンド把握のため、2006年以前はアンゴラを、2007年以前はエクアドルを除く数値

(出所)IEA「Oil Market Report」より筆者作成

原油安、金融危機の石油供給への影響

- 高コスト油田での生産減
- 新規プロジェクトの採算性悪化
 - 投資の遅延・見直し
- 価格の大幅変動により投資決定困難に
- 株式低迷、信用収縮による資金調達難
 - 探鉱・開発・生産活動に影響

OPECの対応とその影響

「市場安定化(価格維持)」に向けた供給調整策の堅持



- しかし、徐々に「高価格志向」が強まる方向に変化
 - 在庫レベル適正化のため減産実施
 - 2006年10月、ドーハ会議で120万B/Dの減産決定
 - 第143回総会(2006年12月)、50万B/Dの追加減産決定
 - 行き過ぎた高価格の回避
 - 第145回総会(2007年9月)では50万B/D増産を決定
 - 第146回総会(07年12月)～第148回総会(08年3月)では増産見送り
 - サウジ主導による産消対話の実施(2008年6月ジッダ会議)
 - 需給緩和、価格下落を踏まえて、減産も
 - 第149回総会(2008年9月)では生産枠(2880万B/D)維持を決定
 - 第150回総会(2008年10月24日)では150万B/D減産を決定

供給支障・不安定化発生の可能性

- 様々なリスク要因を抱える主要産油国
 - イラク
 - イラン
 - ナイジェリア
 - ロシア等
- 自然災害・予想外の事態・事故リスク
 - ハリケーンによる被害
 - 下流(精製部門等)における事故リスク

原油価格の当面の展望

- 2008年前半の原油価格は、途上国での堅調な需要増加、地政学リスク、OPEC政策、資金の流入等で大幅に上昇
- その後、7月中旬以降、OECD需要の鈍化等により反落
- WTI原油先物価格は年平均値で110ドル台
- 米国・世界経済の一層の減速、石油需要の伸び鈍化、資金引き上げ等の場合には下方リスクも
- 他方、供給減退、供給不安の増大、リスクの発生、ドル下落による資金流入の場合は、原油価格上昇も
- 年平均で100-110ドル前後と高止まりか
- 大きな価格変動、高いボラティリティ持続は必至
- 中長期的にも石油市場には大きな不確実性が存在